次回の定期演奏会をちょっと予習

山野雄大

©Makoto Kamiya

第207回定期演奏会「夢～愛・童心・幸福～」

2024年11月4日（月・祝）13：45開場　14：30開演〔14：10～指揮者プレトーク〕
愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮/角田鋼亮（音楽監督）　合唱/名古屋少年少女合唱団
チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71

イギリスの色彩、と題して珍しい秀作たちをお楽しみいただいている本日‥‥に続きまして、次回・第207回定期演奏会は11月4日。さすがに冷え冷えとした季節になっているだろうと思いますが‥‥なんと早いもので、年内最後の定期となります。――テーマは《夢 ～愛・童心・幸福～》。こう書いただけで「ああ、あの曲か！」とお気づきになるかたもいらっしゃいましょうか？まさにこのテーマそのもの、という名作を、たっぷり全曲版でお届けいたします！指揮は本日に続きまして、我らがマエストロ・角田鋼亮音楽監督です。どうぞお楽しみにご来場ください。

◆クリスマスを舞台に、少女の夢が美しくひらく傑作《くるみ割り人形》

申し遅れましたが、次回定期でお届けする作品は、バレエ音楽《くるみ割り人形》全曲です。――クリスマスの晩、少女クララがプレゼントに貰ったくるみ割り人形。ところが、家中が寝静まった真夜中、クララは不思議な体験に巻き込まれ‥‥。人形は美しい王子に変身し、クララをお菓子の国へといざないます。

まさに「夢、愛、童心、幸福」をテーマとした作品です。小さなクララが主人公で、王子様やお菓子の国‥‥と甘やかなファンタジーの世界が繰り広げられますから、分かりやすく愉しくて美しく、バレエを初めてご覧になる家族連れにも大人気。そればかりか、芸術性も非常に高い作品なので、大人にとっても（童心を思い返しながら）バレエの真髄を堪能できる、まさに名作といえます。

特に歳末ともなると、あちこちでバレエ上演がおこなわれますから、舞台としてご覧になる機会も多いかと思います。冒頭がクリスマス・パーティーの場面なので、バレエ教室で習う小さなバレリーナの皆さんでも、難しい踊りを要さず登場できる機会も多い作品‥‥というのも、日本全国で上演が多い裏事情、ではありましょう。こういう作品で舞台の喜びを知りそめて、将来プロのダンサーになった人も多いですから、バレエ芸術の未来にとっても大切な作品なのです。

さておき。このバレエ《くるみ割り人形》が、〈こどもの夢〉にとどまらず、大人のバレエ愛好家にとっても〈夢想の美を極めた傑作〉となっているのは、その素晴らしいバレエ音楽によるところが大きい、といえます。なにが凄いといって、バレエ音楽では珍しいことに、全曲を通して（踊りなしで！）コンサート形式の上演を聴いても十分に楽しめるという、隅まで充実した音楽の魅力的な完成度！

◆バレエ音楽の革命・〈チャイコフスキーの3大バレエ音楽〉

そんな優れたバレエ音楽を書いたのは、ロシアの大作曲家ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840～93）です。子供の頃から大のバレエ好きだった彼は、当時隆盛を誇っていた帝室劇場バレエのために、3つの見事なバレエ音楽を作曲します。――愛の悲劇を劇的起伏も見事な音楽で描ききった《白鳥の湖》（1877年初演）、壮大で豪奢な夢の宮廷絵巻《眠れる森の美女》（1890年初演）、そして《くるみ割り人形》（1892年初演）。

これらは〈チャイコフスキーの3大バレエ音楽〉とも言われ、バレエ音楽史を激変させた革命的な傑作群として、3作とも今に至るまでバレエ界になくてはならない存在となっています。

‥‥というのも、チャイコフスキー以前のバレエ音楽といえば、もちろん例外的に優れて芸術的な作品もあったものの、多くはバレエを創る振付家の要請に応えて、脈絡もさほどなく踊りの音楽をあてはめるように組み上げていった音楽、だったのです。これらは、バレエと一緒に聴くと十分に愉しい音楽なのですが、音楽だけ取り出して聴いてみると、もうちょっと工夫が欲しいかな‥‥と感じさせるもの。

そんな、19世紀後半までの〈大半は未開花状態〉だったバレエ音楽界に、遂に革命をもたらしたのが〈チャイコフスキーの3大バレエ音楽〉でした。型にはまったバレエ音楽ではなく、振付の要求に細かく応えながら、より劇的で、より詩情豊かな表現を生み出して、音楽それだけでも自立してしまうような、素晴らしいバレエ音楽！

◆コンサートでも全曲を楽しめる！《くるみ割り人形》の魅力

このあたりご興味あるかたは、（私も執筆しているムック本で恐縮ですが）音楽の友編『ONTOMO MOOK　バレエ音楽が

わかる本』［音楽之友社、2022年］に、バレエ音楽の歴史や、そのなかでのチャイコフスキー作品の意義など、わかりやすく書かせていただいていますので、ご覧いただければ幸いです。

さて。劇的な迫力に満ち溢れつつ、少し荒いところも残る第1作《白鳥の湖》から、チャイコフスキーは次の《眠れる森の美女》で洗練されて高度にシンフォニックな完成を実現します。そしてチャイコフスキーは、3作目の《くるみ割り人形》でさらに冒険します。

それがどんな音楽的冒険だったのか‥‥は、次回定期の楽曲解説にお任せするとして、《くるみ割り人形》には、先行する2つのバレエ音楽と大きく異なる特徴があります。

まず、バレエ全曲としては、短い。——《眠れる森の美女》をノーカットで演奏すると（休憩なしでも）3時間では済みませんが、《くるみ割り人形》は全曲で1時間半ほど。休憩を入れれば、定期演奏会1回ぶんにちょうどいい長さです。

そして、音楽だけでも交響詩のように愉しめながら、ちゃんとバレエ音楽としての特徴的な魅力もおさえている作品であること。——《くるみ割り人形》は、大きく前半・後半の2部分に分かれます。まず前半の第1幕（クリスマス・パーティーから真夜中の大冒険、そして雪の精たちに導かれてお菓子の国へ旅立つ）は面白いことに、音楽が（バレエでよくあるように）ダンサーの見せ場ごとに途切れることなく、温かいパーティーから幻想的な冒険の世界へと、まるで交響詩のようにひと続きの音楽で描かれてゆきます。そして後半の第2幕（お菓子の国に着いた少女クララは、さまざまな国のダンスで大歓迎される。最後に登場するのが美しい〈こんぺい糖の精〉ですが、夢のような時間は過ぎ‥‥）は、前半とうってかわって、多彩なダンサー陣が優れた踊りを披露するたびに拍手を受ける、組曲のようなスタイルが中心の音楽となります。

前半と後半で、音楽のつくりが明確に違うわけですが、言ってみれば、交響詩と組曲をあわせて愉しめるようなもので、しかも、チャイコフスキー円熟のペンは冴えに冴えて、夢想の美しさを巧みな筆致で描きぬいたうえに、劇的な起伏も素敵。コンサート形式で音楽だけ聴いてみても、びっくりするくらい魅力的な作品として仕上がっているのです。

◆《くるみ割り人形》は、全曲版を生で聴いてこそ。

こんな優れたバレエ音楽ですから、これはぜひ全曲版をコンサートで聴くことで、チャイコフスキーの音楽そのものの素晴らしさをじっくりと味わっていただきたいのです。

視覚にいったん蓋をして、ダンサーさんたちの素晴らしい舞踊表現なしで、音楽だけお聴きいただくと、作曲家が細部に至るまで、どれほど魅力的な音楽を満たしてくれていたのか、があらためてはっきりと分かるはず。バレエ上演ですと、オーケストラ・ピットから響く音楽はちょっと舞台に隠れ気味ですが、コンサート上演ならば、ホールの最高の音響空間で、音楽そのものの魅力を隅まで堪能できます。これは、絶好の機会と言えないでしょうか？

そして、この体験を胸に、いつかあらためてバレエ上演を愉しんでいただければ、舞台からうける喜びは何十倍にも膨らむはず。バレエを習っていらっしゃる若いかたにも、バレエ鑑賞を愛していらっしゃる愛好家の皆さんにも、次回の定期演奏会はぜひこのホールで、生演奏で体感していただきたいと思います。

この作品、バレエでは珍しいことに、前半の最後でコーラスが入ります（雪の精たちがワルツを美しく舞うクライマックスで、「あー‥‥」という歌詞なしのヴォカリーズが、サウンドの幻想美を深めてくれます）。バレエ上演では録音を流したり、木管群で代奏してしまうこともあるのですが、次回定期ではもちろん生の合唱で。名古屋少年少女合唱団の皆さんが、チャイコフスキーの思い描いた音響効果を素敵に実現してくださいます。

‥‥ところで、クラシック音楽ファンのかたなら、「《くるみ割り人形》って、いいところをより抜いた組曲版もあるから、全曲じゃなくてそっちを演ればいいんじゃない？」と思われるかたもいらっしゃいましょうか。

確かに、チャイコフスキー自身が編んだ組曲版もあって、手頃な長さなのでコンサートや録音でも大人気。しかし、全曲版をお勧めしなければならない理由があります。それは、組曲版には、バレエ全曲でもとりわけ美味しいところが、見事にいくつも抜けているのです。

全曲版でまず最初のクライマックスとなる昂揚する第8曲（よく《冬の松林》の場と書かれるのは誤訳で、《冬の樅の森》のシーンです）が組曲には抜けておりますし、続けて演奏される合唱つきの《雪片のワルツ》もありません。さらに主演ダンサーたち最高の見せ場にして、音楽的にも頂点となる第14曲（パ・ド・ドゥ）も組曲にはありません。

バレエのプロモーション用に作られた組曲ならば、いちばんの聴きどころを隠すのも当然でしょうけれど‥‥これらなくしてなにが《くるみ割り人形》か！ということで、すべてを楽しめる全曲版を、ぜひ。次回もこのホールでお会いいたしましょう！

やま の たけひろ
山野雄大

Profile

ライター［音楽・舞踊評論］。『音楽の友』『レコード芸術 ONLINE』『バンドジャーナル』など雑誌・新聞への寄稿をはじめ、NHK・FM「オペラ・ファンタスティカ」他ラジオ出演も。第一生命ホールでのコンサートシリーズ《雄大と行く 昼の音楽さんぽ》ナビゲーターを務めたほか、CD解説、オーケストラやバレエ公演の解説、歌詞対訳など多数。朝日カルチャーセンター新宿教室でバレエ音楽講座を開講中。